

北埼玉医師会の埼玉県在宅緩和ケア地域連携構築事業について

令和元年度の取り組み

- ・ 令和元年 10 月 「在宅緩和ケア充実支援事業」の実施に係るアンケート調査
- ・ 令和 2 年 2 月 在宅緩和ケア地域意見交換会
- ・ 令和 2 年 3 月 13 日 在宅緩和ケア研修会を予定も新型コロナウイルス感染症により開催延期

令和 2 年度 of 取組

- ・ 令和 3 年 2 月 在宅緩和ケア研修会 (Web)
テーマ ; ~在宅緩和ケアにおける疼痛管理の方法~
講師 ; 医療法人社団シャローム シャローム病院
緩和ケア科長 加藤修一先生

北埼玉在宅医療連携室
佐藤 政代

在宅緩和ケア充実支援事業（蕨戸田市医師会の取り組み）

蕨戸田市在宅医療支援センター 矢作伸子

【事業概要】 がん拠点病院と地域の医療機関や介護事業所との連携体制を整備するとともに在宅緩和ケアに対応できる人材を育成する。

【事業内容】・連携体制構築のための検討会議の開催、研修会の実施
・在宅医療連携拠点のコーディネーターが「地域緩和ケア連携調整員」として活動するための研修（国立がん研究センター主催）への参加

【事業実績】

★ 国立がん研究センター主催「地域緩和ケア連携調整員研修」参加

参加メンバー：がん拠点病院（緩和医療科部長（医師）、入退院支援室看護師、緩和ケア外来看護師、ソーシャルワーカー）

在宅医療連携拠点コーディネーター 計 5 名

地域の課題を選定：①地域で展開されている緩和ケアの実際の情報が少ない
②意志決定支援が充分でない③マンパワー不足

目指す地域：①療養場所を自分で選択できる地域

②サポートメンバーが潰れない地域

★ 目指す地域にするためへの取り組み

- ・在宅医療介護関係者や病院・クリニック等と、緩和ケアの地域連携に関する情報交換会（計 6 回）を実施。
- ・「緩和ケアカフェ」の立ち上げに向けた準備集会を開催、具体的な企画について検討。2020 年 3 月以降は、COVID 対応を優先し、予定は一時中断とした。10 月に活動再開、「緩和ケアカフェ」にてコロナ禍での在宅緩和ケアの課題やどのように情報共有できるかなど意見交換。12 月以降は、COVID のため再び活動を中断。2021 年 3 月「緩和ケアカフェ」のオンラインによる開催を検討。緩和ケア病棟の紹介動画作成を同時進行、7 月の研修会に向け準備中。4 月「緩和ケアカフェ」を ZOOM で開催。コロナ禍、在宅と病院等との現状を共有。今後、地域の医療・介護関係者に幅広くケアカフェに参加してもらうために、どのようなテーマや勉強会等のニーズがあるのか話し合った。

在宅緩和ケア充実支援事業及び人生の最終段階における医療・ケアを担う人材育成
本庄市児玉郡医師会在宅医療連携拠点：大沢由美子

=事業の目的=

- ① 緩和ケアを必要とする患者が住み慣れた自宅等で安心して療養できる環境を整備する
- ② 人生の最終段階における医療・ケアについて理解を深め、患者の意思決定支援を実践できる人材を育成する。

=地域の受け皿について（現状）=

患者が自分らしい尊厳ある最期を迎えるため、療養できる環境や意思決定の支援が必要。しかしながら、この地域では、往診登録医を増やしていかないと対応できないのではないかと意見あり

=解決策（案）=

令和2年度：在宅診療をおこなうことで、診療報酬が上がるという事をメリットにしたかどうか？（そもそも、きちんと診療報酬請求が来ているのかが不明）

=具体策=

- ① 診療報酬についての勉強会を3回実施
 - 「在宅医療の診療報酬算定・運用のコツ」(2.10.15)
 - 「訪問看護の報酬 他機関・他職種連携で地域を支える」(2.12.17)
 - 「診療報酬算定・実践編 がん・終末期医療の症例検討 (3.2.15)」
 - ・ 地域の医院、200床以下の病院が連携し「機能強化型連携型在支診・在支病」になることで、休日や夜間往診の負担が軽減、病院も後方支援として機能するのではないか？そして、報酬増が見込める。
- ② 連携して支える地域医療についての話し合い
 - 話し合い 第1回(2.12.21) 第2回(3.2.15) 第3回(3.4.15) 第4回(3.5.13)
 - 1回目、往診登録医・支援ベッド病院など7名が参加
 - ・ 強化型在支診・在支病についての具体策や今後のながれについて
 - ・ 往診医も含めた後進の育成について
 - ・ ACPについて、上手くいかない症例とその解決策の共有
 - ・ レセプトの書き方について、意見交換
 - ・ 医師会の先生方に訪問診療についてのアンケートを実施
 - ・ 在支診2についての届け出方法、カンファレンスの開催方法、連携先について

=結果=

令和3年6月～ 2病院5診療所「機能強化型連携型在支診・在支病」在支診2へ
2診療所「在宅療養支援診療所」在支診3へ

=今後=

拠点が事務局としてカンファレンス開催の準備等や議事録作成などを当面行う予定
今後も連携することで支援診の数を増やしていきたい